

# 博物館

Museum News

# ニュース

徳島県立博物館

No. 127

2022年6月25日発行



ボブキャット (模型)



ヨーロッパヤマネコ (模型)



ネコ (実物)



スミロドン (模型)



ライオン (模型)

## ネコ科動物の頭骨

ネコのなかま（ネコ科動物）は、スミロドンなどの絶滅した種を除くと、40種ほどが知られています。ネコのなかまと一口に言っても、その中には、ネコのように体長（頭胴長）が50cmほどの小型な種から、ライオンのように体長が2mに達するような種が含まれており、姿形や生態はさまざまに進化しています。ネコのなかまを知ることで、ネコとはどんな動物なのかをより深く理解できます。

企画展「ネコ展」では、ネコだけではなく、さまざまなネコのなかまの剥製や頭骨の模型なども紹介します。

(動物担当：井藤大樹)

# まぼろし さんかくぶち しんじゅうきょう 幻の三角縁神獣鏡!?

植地岳彦

## はじめに

筆書は、当館が所蔵する「守住家資料」の「古鏡帳」の中に、古墳時代の青銅鏡「三角縁神獣鏡」を描いた図があることを確認しました。三角縁神獣鏡は、主に3世紀～4世紀（古墳時代前期）の古墳から出土する青銅製の鏡です。直径20～23cm程度の円形で、縁の部分の断面が三角形であること、背面に神や獣の像が表現されていることが特徴です。『魏志倭人伝』で、邪馬台国の卑弥呼の使者が魏の皇帝からもらった「銅鏡百枚」の鏡であるという説もあります。日本国内ではおよそ500面が出土していると言われており、徳島県内では4面が現存しています。図は、三角縁神獣鏡としての特徴が理解できるほど丁寧に描かれているほか、その由来や図の作者に関する情報が注記されており、徳島に現存する4面の鏡とは異なるもののようです。

さて、この三角縁神獣鏡図は、どのように評価できるか、考古学的な情報に照らし合わせ探ってみました。

## 三角縁神獣鏡図の特徴

「古鏡帳」は、20面以上の古い鏡図を集めた冊子で、三角縁神獣鏡図は2枚（図2、図3）あります。

一部に描写が異なる部分がありますが、神像や獣像の数など特徴的な部分は共通していることから、同じ鏡の図と考えられます。

### 両図の特徴

- ①鏡背面内区には、頭を中心側に向けた3つの神像と3つの獣像が交互に配置されています。
- ②鏡背面の内区と外区を分ける獣文帯は、6つの小乳で区画され、その間には四角形の囲いの中に、一文字ずつ「天」「王」「日」「月（日カ）」「日」「月（日カ）」の文字と獣像が配置されています。
- ③断面図から、鏡の縁の断面が三角形になっています。

これらの特徴から、両図は三角縁神獣鏡を描いた図と判断できます。神獣像の描写や銘文などの特徴から、「三角縁獣帯三神三獣鏡」などと呼ばれる銅鏡で、徳島県内で確認されている三角縁神獣鏡とは異なるデザインです。図の鏡と文様構成が似ている三角縁神獣鏡は、国内で6面が確認されており（表1）、これらの鏡と同範鏡（同じ鋳型でつくった鏡）の可能性ががあります。

また、細かい部分まで丁寧に描写する図2に対して、図3はやや省略した表現があることから、図3は図2を模写したのではないかと考えられます。

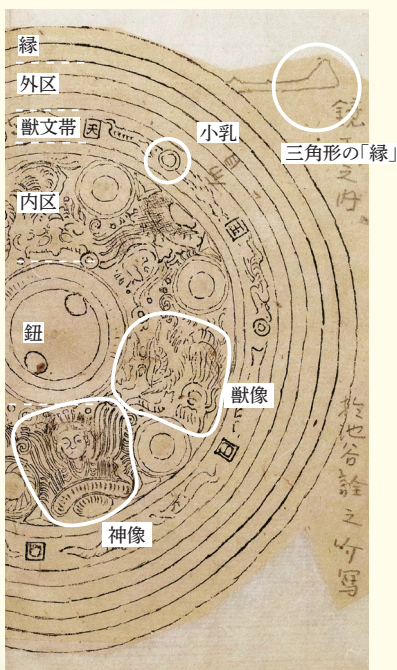


図1 三角縁神獣鏡図の部分名称

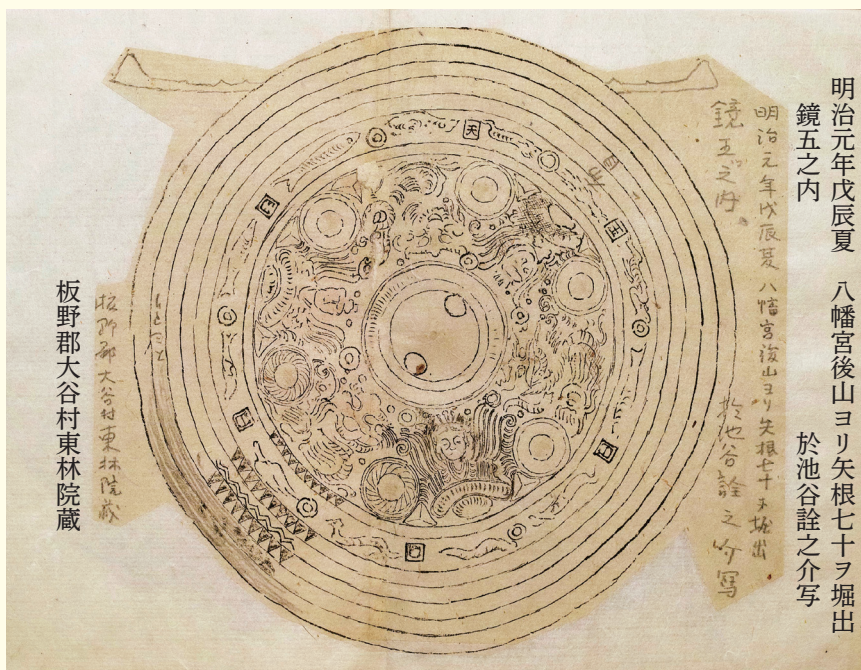


図2 銅鏡図1



## 注記内容

両図には、鏡に関する情報が文字で記載されています。図3の注記は図2より少なく、内容を省略したものようです。注記の概要は次の通りです。

- ①1868年（明治元）の夏に、八幡宮（現在の宇志比古神社、鳴門市大麻町）の裏山から、大量の矢根（鏃）が出土した。
- ②鏡を描き写した当時は、板野郡大谷村に所在する東林院が鏡を所蔵していた。
- ③池谷（鳴門市大麻町池谷）で詮之介が描き写した。

注目すべきは、注記が示す場所で、鳴門市大麻町に所在する宇志比古神社の北側にあたります。また、当時この鏡を所蔵していたとされる東林院は宇志比古神社に隣接しています。この場所は、阿讃山脈南麓の東部に広がる「鳴門板野古墳群」の範囲内です。同古墳群では、古墳時代前期から前方後円墳をはじめとする古墳が多数造られましたが、三角縁神獸鏡に関する情報は少なく、板野町吹田で破片一点が採集されたのみです。仮に

本図に描かれた鏡が、東林院・宇志比古神社周辺にあった古墳の副葬品であったとすると、鳴門板野古墳群での三角縁神獸鏡出土例として注目される資料になります。

図を描いた「詮之介」は洋画家の守住勇魚の本名で、幕末から明治の前半にかけて活躍したやまと絵画家の守住貫魚の子です。守住貫魚は、おりにふれて古器物や同時代の道具等を描き、いわれのある石や貝などの自然物もあつめた好古家としても知られています。詮之介も貫魚と同様に、珍しい「もの」を図に描いて記録したのでしょうか。

## 幻の三角縁神獸鏡!?

2枚の鏡図は、発見の時期や場所が具体的に注記され、その内容は現在の考古学的な視点でも矛盾がなく、徳島でかつて出土した銅鏡を描いた可能性が高いと言えます。残念ながら、現在この図に描かれた銅鏡は行方不明となっており、まさに「幻の三角縁神獸鏡」と言えます。本図に描かれた三角縁神獸鏡が、再発見されることを切に願うばかりです。

（考古・保存科学担当）

表1 古鏡帳の「三角縁神獸鏡図」と構成が似ている鏡の一覧。これらは同範鏡と考えられている。

名称	発見地	発見年	直径	所蔵
原口古墳出土鏡	福岡県筑紫野市	1932年	21.9cm	東京国立博物館
祇園山古墳出土鏡（推定）	福岡県久留米市（推定）	江戸以前	22.1cm	高良神社
東求女塚出土1号鏡	兵庫県神戸市	1870年	22.2cm	東京国立博物館
茶臼山古墳出土鏡片二一四	奈良県桜井市	1949年	内区破片	橿原考古学研究所
高塚山古墳出土鏡（推定）	三重県桑名？	不明	22.1cm	MOA美術館
椿井大塚山古墳出土鏡M26	京都府木津川市	1953年	21.5cm	京都大学総合博物館・山城郷土資料館

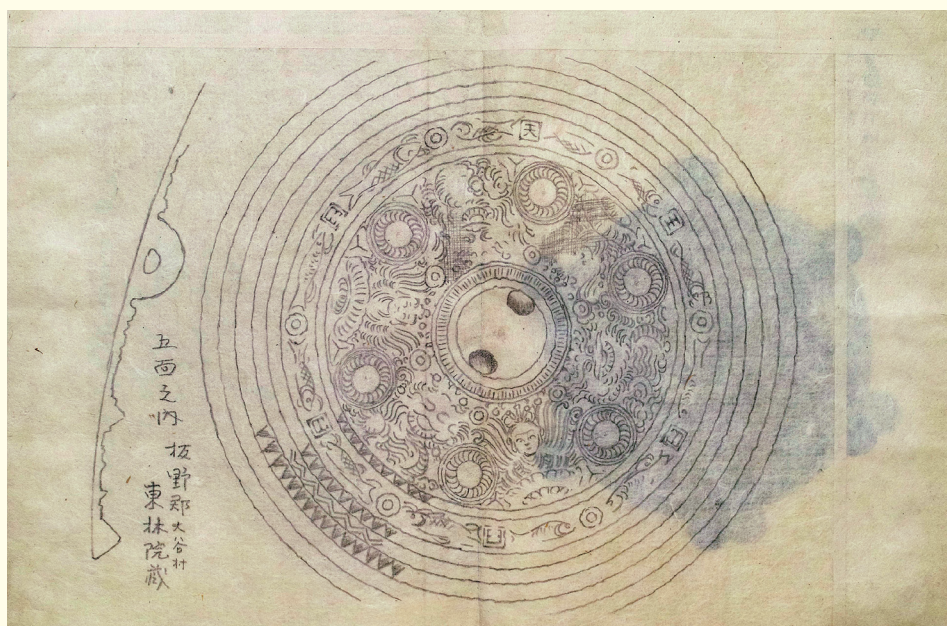


図3 銅鏡図2

令和4年度企画展

# ネコ展



かわいい  
だけじゃない  
ネコ

ネコは、現代ではペットとして世界中で飼育されています。日本でも、ネコは伴侶動物と呼ばれ、特に近年ではその人気が高まっています。一方で、ネコの由来や、これまでのネコと人との関係については必ずしも広く知られているとは言えません。さらには、近年のネコブームによって、様々な社会問題も引き起こされています。

本企画展では、ネコの進化の歴史や、これまでのネコと人との関係、ネコに関連する社会問題等を取り上げ、かわいいだけではない、ネコの姿や現状を紹介します。



会 期：2022年

7月16日(土)～8月28日(日)

会 場：博物館1階 企画展示室

開館時間：9:30～17:00

休 館 日：毎週月曜日、7月19日(火)

※7月18日(月・祝)、8月15日(月)は開館

観 覧 料：一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円  
(20名以上の団体は2割引/土・日曜日、祝日及び夏休み  
期間中は高校生以下無料/65歳以上は100円/身体障害  
者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所有者及び  
その介助者1名は無料/学校教育による利用は無料)

※割引を希望される方は証明できるものをご提示ください。



## 関連行事

### ● 展示解説

日 時：①7月30日(土)  
②8月6日(土)  
いずれも13:30～14:30

会 場：博物館1階 企画展示室

会 対 象：小学生から一般

※事前申込は不要、企画展観覧料が必要

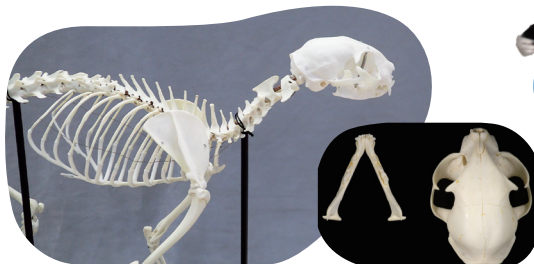
## ネコのなかま

これも僕たちのなかまにやのか！？  
さまざまなネコ科動物が集合！



## ネコのからだ

僕たちのからだはどうなっているのかにや？  
ネコのからだの中を見てみよう！



## 徳島のネコ神社

徳島のネコ神社を紹介！





# ふくとくおか ば これが海底火山“福德岡ノ場”の軽石だ！

## Features of pumice rafts from Fukutoku-Oka-no-Ba submarine volcano

昨年（2021年）の秋、沖縄県などにたくさんの軽石が流れつきました。海岸や港を埋め尽くし、大変なことになっていると、テレビや新聞で報道されていたのを覚えている人も多いでしょう。私も海岸の漂着種子を調査しているので、気になっていました。これは、小笠原諸島の海底火山“福德岡ノ場”から噴出したものです。はじめは主に沖縄県をはじめとする南西諸島に流れつきました

が、11月に入ってから、関東でも確認されるようになってきました。そして、年が明けてからは、徳島県の海岸にも流れつきました。

ただし、海岸で見られる軽石には、“福德岡ノ場”以外の場所から流れてきたものもたくさんあります。そこで、下に、“福德岡ノ場”の軽石を見分けるためのポイントを紹介しました。皆さんも海岸で軽石を見つけたら、よく観察してみてください。

（植物担当：茨木 靖）

### “福德岡ノ場”の軽石の特徴

#### ① 色

主に白色から黄色みがかかった灰色（中には、濃い灰色の縞<sup>しま</sup>が入ったものや、少数だが黒色のものもある）。

#### ② 模様

チョコチップクッキーのような外見で、直径1～5mm程度の黒い部分が目立つ。

#### ③ 外観

海岸で見つかる他の軽石と比較すると、ややごつごつしている。





# 茶さばき機

図1は、茶さばき機という名称の、阿波晩茶の製造に使われる道具です。那賀町鮎川地区で使われていたものです。

阿波晩茶は、夏の茶葉を漬け込み、発酵させて作るお茶で、徳島県の特産品としても知られています。摘んできた茶葉をゆで、擦り、桶に漬け込んだ後、取り出し、天日で干して作ります。

茶さばき機は、この工程の内、茶葉を桶から取り出す際、ほぐすのに使います。茶さばき機をベルトで発動機につなぎ、その動力により内部のドラムを回転させます(図2)。茶さばき機内部のドラムには、突起状になった鉄棒が取り付けられています(図3)。これが回転することで、茶葉をほぐします。

ここまでで、勘の良い方は「あの道具」によく似ていると気づいたかもしれません。実は、この茶さばき機は、稲扱用の足踏脱穀機(図4)を改造したものです。足踏脱穀機は、明治期に発明され、稲用の脱穀器として全国に普及していった道具です。広く流通していた足踏脱穀機の改造を考



図1 茶さばき機(当館蔵)

案したのが、那賀町の大工でした。結果的に、茶さばき機は、那賀町域の阿波晩茶製造農家にだけ普及していきました。

茶さばき機が地域限定的に普及した理由は、次のようなものです。

- ①茶さばき機の需用が限定的：阿波晩茶の生産農家が少ない
- ②ほどほどのコストで、ほどほどの労働負荷軽減：生産農家にとって、阿波晩茶は副次的な生産品
- ③足踏脱穀機の普及：簡単に応用できる技術と道具の存在

地域限定的に生産される阿波晩茶生産農家の総数が少ないため、メーカーが機械開発に乗り出すこともなく(①)、阿波晩茶生産農家の多くは、稲、ゆず等の栽培を並行して行っているため、阿波晩茶の生産にだけコストをかけられず(②)、一方で身近に応用できる技術と、改造を手助けしてくれる職人が偶然いた(③)という背景がありました。

(民俗担当：磯本宏紀)



図3 茶さばき機内のドラム(図1の部分拡大)



図2 茶さばき機による作業  
(2019年7月、黒川仁美氏撮影)



図4 足踏脱穀機(当館蔵)





## 日本地質学会が、徳島県の岩石として「青色片岩」という石を選定したそうですが、これって「阿波の青石」と同じものですか？

日本地質学会は、2016年5月に全国47都道府県のそれぞれで、「県の石」（県の岩石、県の鉱物、県の化石）を1点ずつ選定しました。徳島県で県の岩石として選ばれたのが青色片岩です。

この質問には一言ではなかなか答えにくいのですが、あえて言い切ってしまうと、地質学（とくに変成岩岩石学）では、ふつうの緑色の「阿波の青石」（以下、青石）と「青色片岩」は別な種類の岩石として区別します。

「青石」というのは石材名で、もともといろいろな種類の岩石を含んでいたようです。その意味

では、「青色片岩」も「青石」のひとつ、と言っても間違いではありません。しかし、現在では「青石」は「青色片岩」という別な結晶片岩にほぼ限定して使われることが多いようです。

青色片岩は別名を藍閃石片岩ともいい、藍閃石という濃青色の鉱物を多く含んで全体的に青みを帯びた結晶片岩です。地下20～40kmという深い場所のわりには、温度が300～500℃という低温の変成作用を受けてできたことが分かっています。代表的な産地は、徳島市の眉山と吉野川市の高越山です。

いっぽう緑色片岩は、緑泥石や緑簾石、アクチノ閃石などの緑色をした鉱物を多く含んでおり、全体的に緑色を帯びています。地下およそ10～25km、300～500℃の変成作用を受けています。この岩石も眉山から産出し、県内では建築材や庭石としてよく見かけます。

青色片岩と緑色片岩は、ともにもともと玄武岩質の岩石だったのですが、青色片岩の方が、プレートの沈み込み域で、より深く沈み込んだということがわかっています。このような特徴があり、徳島県に特に多産することから「徳島県の岩石」に選定されたようです。

（地学担当：中尾賢一）

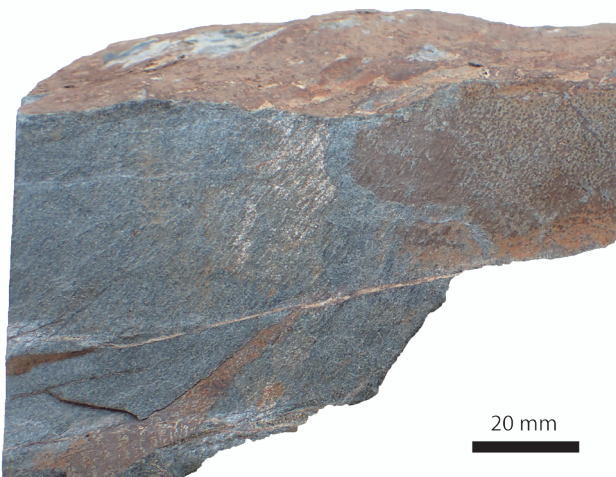


図1 青色片岩（徳島市眉山産）。



図2 図1の標本の産地。岩石の表面が風化して黄色くなっている。

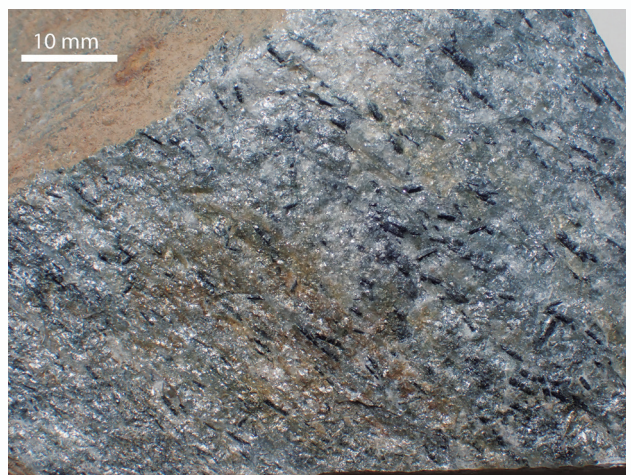


図3 藍閃石の大型結晶（吉野川市高越山産）。青みを帯びた黒っぽい細長い結晶。



シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
野外生きものかんさつⅠ<動物>	川魚かんさつ夏編★	7月24日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(15)	徳島市・園瀬川
野外生きものかんさつⅡ<植物>	花巡り!植物かんさつハイキング7月~山開き自然の中へ!~	7月 2日(土)	10:30~17:00	要	小学生から一般(15)	弁当・水筒持参 那賀町ファガスの森
	漂着物を探そう!★	7月31日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(15)	徳島市小松海岸
	花巡り!植物かんさつハイキング9月~秋の七草探してみませんか?~	9月25日(日)	10:30~17:00	要	小学生から一般(15)	弁当・水筒持参 海陽町轟の滝
生きものしらべ隊	魚類の頭骨標本をつくろう★	8月 7日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(15)	
みどりを楽しもう・味わおう	インジゴで遊ぼう★	7月31日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(24)	
	光る花や貝をさがそう★	8月28日(日)	19:00~20:30	要	小学生から一般(24)	ブラックライトは不要、普通の懐中電灯は必要 徳島市内
たのしい地学体験教室	恐竜化石を探そう! 7月	7月16日(土)	13:30~15:30	要	小学生から一般(15)	恐竜やカメなど有脊椎動物化石が見られた場合は、博物館に寄贈
	化石のレプリカをつくろう★	8月 6日(土)	10:00~12:00	要	小学生から一般(15)	材料費100円(高校生以下は不要)
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①~⑥	9月17日(土)	13:30~15:00	要	一般(20)	①~⑥セット 申込みは 9/7(水)まで
		10月22日(土)				
		11月19日(土)				
		12月17日(土)				
		1月21日(土)				
2月18日(土)						
歴史散歩	徳島大空襲の史跡を歩こう★	7月 3日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(20)	徳島市内
徳島の考古学 スタートアップ講座	徳島の考古学スタートアップ講座①~⑥	8月 7日(日)	10:00~12:00	要	高校生から一般(10)	①~⑥セット 申込みは 7/28(木)まで
		9月18日(日)	10:00~12:00			
		10月16日(日)	13:30~17:00			
		12月11日(日)	10:00~12:00			
		1月22日(日)	13:00~17:00			
2月26日(日)	10:00~12:00					
ミュージアムトーク	恐竜と生きたワニたち	7月17日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(20)	
	ゼロから始める植物学~標本の作り方編~&初めての植物かんさつ(夏編)★	7月17日(日)	9:30~12:00	要	小学生から一般(20)	
	福井県立恐竜博物館連携講座 日本のおいし化石と発掘	8月11日(休・初)	13:30~15:00	要	小学生から一般(50)	文化の森 多目的活動室
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	昔の絵の見方入門	7月24日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(20)	会場:海南文化館
	徳島における江戸時代以降の刀鍛冶紹介	8月21日(日)				
	若杉山辰砂採掘遺跡と海陽町の遺跡	9月25日(日)				
コレクションセクション 関連行事	歴史・文化コレクション「太布-樹皮から布をつくる手仕事-」展示解説	7月10日(日)	13:30~14:00	不要	小学生から一般	常設展観覧料必要
	歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」展示解説	9月18日(日)	13:30~14:00	不要	一般	常設展観覧料必要
企画展関連行事	企画展「ネコ展」展示解説	7月30日(土)	13:30~14:30	不要	小学生から一般	企画展観覧料必要 (高校生以下無料)
		8月 6日(土)				
博物館スペシャル	とくしま藍の日スペシャル 藍のはっぱで遊ぼう★	7月24日(日)	10:00~12:00	不要	一般	常設展観覧料必要 材料がなくなり次第終了
	標本の名前を調べる会★	8月20日(土)	10:00~16:00	不要	小学生から一般	☆参照

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。  
 ☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物(昆虫・貝など)・岩石・化石などの標本の名前を調べる行事です。希望者は採集標本(1人30点以内)を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事の  
お申し込みについて

開催予定日の**1か月前から10日前必着**でお申し込みください。  
 参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。  
 原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでのお申し込み

1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。  
 下図のように記入し、お申し込みください。

往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向香山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	63 〒00000000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員の氏名 (学年・年齢) 3.住所 4.電話番号 (またはFAX番号)

●電子メールでのお申し込み

1通の電子メールで、1行事のみ申し込むことができます(申し込み締切日の17時まで)。

確実に連絡がとれるよう、携帯電話をご使用の場合は、パソコンからの電子メールを受信できるように設定してください。

- ・お申し込みのメールには、必ず次の項目を記入してください。
- ①参加希望の行事名 ②参加希望者全員の氏名(学年・年齢)
- ③住所 ④日中に連絡のとれる携帯電話番号(または固定電話番号、FAX番号)
- ⑤メールアドレス

※いただいた個人情報、お申し込みのあった行事についてのみ使用します。  
 行事申込専用アドレス mus\_event@bunmori.tokushima.jp  
 詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご確認ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご覧ください。



学校教育に博物館を!

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足 ●博物館資料の貸し出し
- 館内授業(博物館で) ●教材研究のお手伝い
- 出前授業(学校で)

・学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各専門分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。



火おこし(出前授業・館内授業)

特典がいっぱい!! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について理解を深めながら、楽しく学んでいます。個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか。

- 年会費
  - ・個人会員2,000円
  - ・家族会員3,000円
 (10月以降にご入会される場合、会費はそれぞれ半額となります。)

■会員の特典

- ・友の会行事に参加できます。
  - ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
  - ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。
- 詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)

